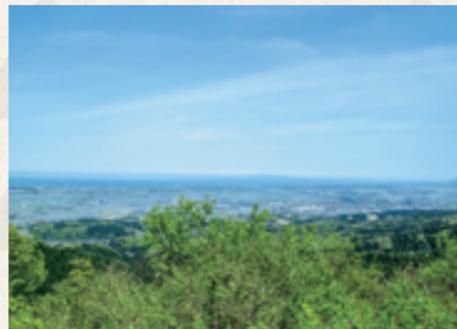


地の章

Chapter of The land

楡形山脈は四季折々の豊かな自然の宝庫。大峰山椽平(とちだいじ)桜樹林などの桜、楡形山のブナ林、高山植物などの植生や登山道展望台からの絶景に恵まれ、お花見やハイキング、登山などの山遊びに最適なエリアです。



▲大峰山展望広場

一 楡形山脈の自然や景観

越後平野の北東部に位置する楡形山脈は、ともに飯豊連峰を源流とする、新発田市を流れる加治川と胎内市を流れる胎内川に両端を分断されているため、全長わずか13.5km、最高峰は楡形山の標高567.9m、平均標高が300mにも満たない「日本一小さな山脈」として知られています。各展望台から望む飯豊連峰・朝日連峰の壮大な景観、田園風景の広がる越後平野と日本海に浮かぶ佐渡島はまさに絶景です。また、美しいブナ林や南方、北方系が入り混じった多様な植生、絶滅が危惧される貴重動植物の宝庫であり、多様で豊かな自然が凝縮されています。

一 楡形山脈の自然体験

登山・ハイキング

楡形山脈の景観を満喫できる登山道は尾根に沿って整備されており、縦走コースはもちろん、自分の体力に合ったコース設定も可能で、幅広い年代の方が気軽に登山を楽しむ山として親しまれ、楡形山脈縦走登山やウォークイベントも開催されています(裏表紙参照)。

お花見

国の天然記念物、大峰山椽平桜樹林や桜公園などの多種多様な桜は、4月～5月中旬が見頃で、品種によっては12月頃まで觀賞することができます。4月の大峰山山桜まつりもお楽しみください(裏表紙参照)。

林の章

Chapter of The history

■ 新発田市編

源氏の武将 佐々木三郎盛綱

盛綱は鎌倉幕府を開いた源頼朝の信頼が特に厚い側近といわれています。佐々木氏はもともと源氏の流れをくみ、近江国佐々木荘現在の滋賀県を治めていました。1177年から1185年にかけて日本全国で起こった源氏と平氏の戦い「源平合戦」では、盛綱をはじめとする佐々木氏が活躍。その記録は、鎌倉時代の歴史書「吾妻鏡」にも残されています。

源平合戦などの功績により、盛綱は、備前国児島(現在の岡山県岡山市、倉敷市付近)、上野国磯部郷(現在の群馬県安中市)、越後国加地荘などを与えられました。

▼ 佐々木三郎盛綱



新発田市と胎内市には多くの名所・旧跡、そして魅力的な歴史上の人物が語り継がれています。楡形山脈は鎌倉時代から戦国時代にかけて多くの戦いが起こり、源氏の「佐々木三郎盛綱」と平氏の流れをくむ「越後城氏」・「板額御前」が活躍した鎌倉時代の歴史は、現代の新発田と胎内の繁栄の基礎を築いたといわれます。

「加地荘」は、現在の新発田市域から新潟市沼垂付近までを占めていたといわれる荘園で、盛綱は領主として田畑を開発し、この地を治めました。鎌倉時代に入り、鳥坂城の戦いの後は、子の信実とその子孫により加地荘の開発が進められ、新発田の基礎を築いていきました。

一 盛綱の子孫と新発田の繁栄

盛綱の子孫は、室町時代から戦国時代にかけて、加地氏、新発田氏、竹俣氏などに分かれ、有力な豪族に成長していきました。戦国時代には、佐々木一族は、上杉謙信の配下の武将として、武田氏との川中島の戦いなどで活躍します。謙信の没後、後継者の上杉景勝と加地氏や新発田氏が対立。7年間にわたる抗争を経て、加治城などが落城しました。1587年、最後に残った新発田重家の居城も落城し、新発田氏は滅亡します。一方、景勝方に残った竹俣氏は、上杉氏に從つて、会津・米沢へと移つていきました。1598年、豊臣秀吉に命じられ、加賀大聖寺から溝口秀勝が入封し、初代新発田藩主となります。新発田重家の居城跡には、現在の新発田城が建てられ、約270年にわたって、溝口氏に統治されました。

盛綱を源流とする佐々木一族は、平安時代末期から戦国時代末期にかけて、現在の新発田市域を統治しました。新発田の繁栄は、佐々木盛綱から始まったと言つてもよいでしょう。

ブナ林や紅葉で深呼吸

胎内エリア

楡形山ブナ林



胎内市に位置する楡形山山頂一帯には新潟県ブナ林100選に選ばれた見事なブナ林が広がり、心地よい爽快感を味わうことができます。このブナ林を抜けた山頂からは壮大な飯豊連峰・朝日連峰などの山岳景観を臨むことができます。MAP P.5

樽ヶ橋の紅葉



鳥坂城の戦いの伝説が残る樽ヶ橋、道の駅「胎内」の芝生広場から胎内川を囲む山々の紅葉は絶景です。真っ赤な樽ヶ橋も紅葉に溶け込み、撮影スポットとしてもオススメです。MAP P.6-A

桜の図書館を散策

新発田エリア

椽平桜樹林(国天然記念物)



昭和9年に国の天然記念物に指定された大峰山椽平桜樹林はオオヤマザクラ、オクチョウジザクラをはじめ、自然交配によって生まれた中間雑種もあり、種類は40種以上、4月～5月中旬の見頃には約1000本もの桜が山腹を包み、雪模様の花景色になります。特に大峰山登山道の一本松展望台からの眺めは圧巻です。MAP P.5

高山植物



※写真はイメージです

数多くの高山植物を楽しめるのが楡形山脈の魅力の一つ。4月上旬から下旬まで、カタクリやおオバキスミレ、エンレイソウ、ヒトリシズカなど多くの高山植物に出会うことができ、特に大峰山山頂付近の登山道を彩るカタクリの群生は必見です。MAP P.5.6



大峰山椽平桜樹林と金山城遺跡に隣接する「桜公園」には世界の桜109品種、約300本が植栽されています。公園を囲む遊歩道も整備されており、緑色の花をつける御衣黄など珍しい品種の他、4月と10月に花をつける十月桜など、四季を通じて観桜できます。MAP P.6-C

■ 胎内市編

一 越後城氏

平安時代末期から鎌倉時代初期まで越後に栄えた豪族です。桓武平氏の流れをくみ、武勇の名を天下にとどろかせた余五将軍平維茂(よしむね)の孫といわれる(これももちろ)子、繁成が(出羽・秋田県)城介・朝廷より与えられた官職名だったことから、そののち城氏を名乗りました。

城氏の治めた奥山荘は、現在の胎内市の大部分と、その周辺地域を含む広大な荘園で「吾妻鏡(あづまかみ)」文治2年(1186)3月12日の条にのる年貢未納荘園の注進状(ちゅうしんじょう)に「殿下御領奥山荘」とあり、撰閔家領(せんかんけりょう)でした。この荘園の開発領主と考えられている城氏が鳥坂城の戦いで滅亡した鎌倉時代以降は、三浦和田一族(後の中条氏、黒川氏、関澤氏)が地頭として治めました。

一 弓の名手 板額御前

今から約800年前に胎内市で活躍した勇婦「板額御前」は鎌倉時代初期の越後の豪族「城資盛」の嫡母といわれ、弓の名手として知られています。

「鳥坂城の戦い」で攻め入る敵に矢を浴びせ、その百発百中の強弓が敵を驚嘆させた様子などが、鎌倉幕府の正史である「吾妻鏡」に登場します。女性の、それも敵方の武将が記録される事は非常に珍しく、それだけ彼女の活躍が鎌倉武士達の心に強い印象を与えたといえます。容姿端麗で、静御前、巴御前とともに日本の三大御前の一人とされています。



▲五十嵐 力氏 画

【吾妻鏡に記された板額御前】

鎌倉幕府の正史である「吾妻鏡」では「女性の身たりと雖(いえず)も、百発百中の芸殆ど父兄に超ゆるなり。人挙て奇特を謂う。この合戦の日殊(こと)に兵略を施す。童形(どうぎょう)の如く上髪(じょうは)は(せ)せしめ腹巻を着し矢倉(やぐら)の上に居て、襲い到る者死なずと云うこと莫(な)し。」と書かれています。



【鳥坂城の戦い】 1201年4月、平氏の流れをくむ城資盛軍と盛綱を総大将とする幕府軍との戦い。この戦いで、城資盛の嫡母・板額御前が鳥坂城の櫓の上から射た弓は百発百中といわれています。幕府軍の藤沢四郎清親が板額の太腿を弓で射ぬき、鳥坂城は落城し、平安後期以来の越後最大の豪族武士団、越後城氏は歴史から姿を消しました。